

足立議員 強靱化予算確保に尽力 岸田会長 今こそ財政出動のとき

国政セミナー



参議院議員「足立敏之『国政セミナー』」が24日、東京・千代田区のホテルグランドパレスで開かれ、足立議員の支持者や自民党幹部などが出席

した。今年、新型コロナ

ナウイルスの感染拡大防止の観点から、ソーシャルディスタンスを考慮した着席方式とし、会場も分けてライブ映像を配信しながら国政報告などを行った。

セミナーは2部制で開催。第1部では、自民党の前政調会長で、足立議員が所属する宏池会の会長の岸田文雄衆議院議員が基調講演を行い、新型コロナウイルス禍に言及

した。

岸田会長は、新型コロナに対応するために「世界の各国は財政出動して立ち向かっている」と述べるとともに、「こうした中においても「災害は行き着く暇なくやってくる」と指摘。「いま必要なものに躊躇してはいけ

ない」と語気を強め、国土強靱化もコロナと同じ課題として「財政出動」によって立ち向かっている必要があると強調した。

第2部では、足立議員

が国政報告で、2017年頃から自然災害の大きさがエスカレートし、地球温暖化の影響が顕著になってきたことを説明。

これまでの1世紀で気温が1度上昇していた状況が悪化し、2100年までには3〜5度上昇すると予測されているた

め、ますます自然災害リスクが高まる中で、自然災害に脆弱な日本の国土にとって、事前防災や国土強靱化が不可欠であることを訴えた。

諸外国と比べ、日本のインフラ整備が遅れている中で、インフラの老朽化も進展しているため、必要十分な国土強靱化予算に加え、当初予算での公共事業費も確保していくことに「私も頑張ります」と述べ、予算確保に尽力する姿勢を

示した。

さらに、こうした事業を着実に推進するには、建設産業の存在が不可欠であるため、建設産業の再生に取り組み考えも強調。公共事業予算の計画的確保とともに、質の確保の面から、品確法等に基づく施策を着実に実施するため活動を展開する考えを示した。デジタル化も推進し、建設業を未来型の産業に発展させたい意向も示した。